

明日を拓く企業の戦略

成長する企業には独自の戦略がある。企業の今を、そしてこれからを創るその戦略に迫る

Strategy of the company to open up tomorrow

第三一回



創立60周年を迎えた平成24年に完成した新社屋は、明るく暖かみのある吹き抜けのエントランスが特徴的。機能面だけでなく、社員がいかにか快道で動きやすいかを最優先に考えて建てられた

備商(株)

技術力あるエンジニアリング商社として、顧客にトータルサービスを提供

岡山駅後楽園口（東口）広場にあるピーコック噴水は、長年多くの市民に親しまれてきた。その設置を手掛けたのが岡山市南区福成に本社を置く備商(株)。機械卸売業、機械器具設置工事業を営む専門商社である。

業績は右肩上がり、直近の10年で社員数は倍増し、人手不足の問題がつきまとう昨今でも同社の離職率は業界内で際立って低い。飛躍を遂げた要因は何だったのか、そして社員が辞めない会社作りにはどのような努力があったのか、上野雅史代表取締役社長に聞いた。



聞き手・執筆
井ノ上美恵子
(フリーアナウンサー)

社員のチャレンジでボトムアップ型企業に

備商(株)は、昭和27年にイ草製品やゴム製品を扱う商社として設立。高度経済成長で、鉄鋼製品や産業用機械へと商材はシフトしていった。

民間事業に加え、先代社長が公共事業に特化した部門を立ち上げたことで、雨水ポンプや非常用発電設備などの環境事業で専門的な力を発揮する。民需と官需それぞれへの事業展開ができたことから、オイルショック、バブル崩壊などの不況下でも屋台骨が揺らぐことはなかった。

現社長の上野氏は、大学卒業後、大手鋳造

設備メーカーで3年間修業し、平成12年に入社、4年後には役員に就任するが、その時の役割はなんと「取締役係長」。「業績や将来への責任を持ちながら、下積みも合わせてやりなさい」という先代からのメッセージでしよう」と述懐する。

この役職名の下で、若手同士の意見交換会を立ち上げ、自らも若手としてその輪の中に入り率直な意見を引き出して経営陣につないだ。また、上司から言われたことをやればよいというスタイルから、自分で考え行動するスタイルへの変革を促し、たとえ失敗しても挑戦したこと自体を評価した。

やがて「チャレンジしてもいいんだ」との認識が若手社員に広がり、アイデアを柔軟に出していこうという雰囲気が大きく育っていったのである。

プラント構築のプロデューサーとして

通常、工場設備のプラントが設計される際には複数の機械を組み合わせるため、不具合が起きた場合にその原因を特定することが難しく、ともすると納入した企業同士の責任の擦り付け合いになることさえあるという。

こうした状況は、顧客にとって不利益ではない。上野氏は「ライン形成をすべて当社で担えるようになれば、お客様にとって大きな負担軽減になる」と考えた。

ラインすべての機械を扱うとなれば、営業マンをはじめ関わる社員には極めて幅広く、かつ専門的な知識と技術が必要になるが、方針は定まった。「トータルサポートをすることで、モノを売る会社から技術を売る会社になる」と。

顧客の要望に沿ってプラントの全体像を企画し、構成するすべての機械を提案、それらをラインとしてつなげるための設計、完成後のメンテナンスまでをトータルで提供する。それは決して簡単なことではないが、培ってきた若手社員のチャレンジ精神や、経営陣と現場の一体感ある風土がその挑戦を支え、備商(株)は、プラント構築のプロデューサー的企業としての地歩を固めつつある。

また、大手企業と渡り合えるだけの技術力をつけてきたことから、それまで下請けで受注していた公共事業においても元請けとして入札受注でき、業績は大きく伸長した。何よりも「下請けからの脱却」が、自分たちが地域のインフラを支えているというプライドにつながり、社員のモチベーションがさらに上がったという。「技術力を持った営業マンの育成に注力した結果です」と上野氏は胸を

働き続けたい会社づくりへ

平成24年の創立60周年に向けて、若手社員と新社屋のプロジェクトを組む中で、上野氏は将来を担う社員にとって家族に誇れる社屋にしようとの考えに至る。「店舗が利益を生むような業種ではないので、あまりお金をかけないつもりだったんですけど」と苦笑するが、その根底には、社員には心も体も健やかに長く勤めてほしいという思いがあった。

社員が考え練り上げた、風通しが良く光が差し込む新社屋は、岡山市景観まちづくり賞を受賞した。すると、その影響は採用活動にも顕著に表れ、ここで働いてみたいという希望者が増えた。優秀な人材が採用でき、さらに業績も上がるという好循環もできてきた。

福利厚生にも手厚い補助がある。健康診断の結果をもとに、必要な社員には民間のダイエットプログラムを活用し、運動や食事指導で健康に痩せることを支援している。1人10万円の受講料は全額会社が負担。「健康経営優良法人2023」の中小規模法人部門において、全国でわずか500社が認定される「プライト500」に選ばれたことがその成果を物語っている。

また部署や世代の垣根を超えたつながりを持つてもらえたらと、2年前には社内には同好会を立ち上げ、現在はフットサルや釣りなど9つの同好会が活動する。スキルアップに向けた資格取得の費用も全額会社負担という。

今後はタイをはじめインドやアフリカなど海外での事業を積極的に展開していく計画だ。技術力あるエンジニアリング商社として、社員とともに世の中に必要なものを届けていきたいと上野氏は夢を広げる。



ポンプ関連の設備は、同社の官需事業の中でも特に強い分野。設置からその後のメンテナンスまでを一手に担い、市民の生活を支えている



路面電車の乗り入れ事業で撤去が決まっている岡山駅後楽園口（東口）広場のシンボル、ピーコック噴水は、昭和50年に同社が設置し維持管理をしている。ここまで大型のピーコック噴水は全国でも珍しくメンテナンスには2、3日かかるという



上野雅史氏は平成12年に入社、平成28年以前会長である父の跡を継ぎ代表取締役社長に就任した。近江商人の三方よしに「心よし」「未来よし」を加えた五方よしの精神で、多様性のある企業を目指す



本社 岡山市南区福成2丁目19番6号
事業内容 機械卸売業、機械器具設置工事業
代表者 上野 雅史
設立 昭和27年(1952年)
資本金 2,800万円